



「短歌を学んで短冊を書こう」

優秀作品発表!

●先日、創学舎の各教室で「七夕イベント」を開催しました。短歌に願いを込めて、「五・七・五・七・七」三十一音という制限の中、小学生たちが一生懸命に歌を考えました。音数と時間制限がある中で、皆さん、本当によく頑張ってくれました。

●創学舎では、イベント、百人一首の暗唱を通じて「地頭を鍛える訓練」をしています。今年の夏休みは、一つでも多く短歌を学び、数千年、数百年受け継がれている素晴らしい古典文学に触れてみてください。

創学舎 短歌審査委員会  
審査委員長 関野 光希子

特選(一名)

夏祭り 射的に輪投げに 金魚すくい  
最後にのこるは 宿題祭り



【受賞者】 小川 詩織さんの喜びの声  
私を選ばれるとは思っていませんでした。本当にありがとうございました。

【新柏教室長 松尾 裕史より】  
普段の小川さんとは少し違ったユーモア溢れる面白い歌ですね。私、心が笑顔になりました。

金賞(二名)

毎日の しあわせ大事に 生きていく  
家族や友に とても感謝

【受賞者】 山谷 育愛さんの喜びの声  
夢にも思っていなかったので嬉しいです。本当にありがとうございました。

【新柏教室長 松尾 裕史より】  
受賞おめでとうございませす。新柏教室で一番の読書量を誇る山谷さん。その知識量に見合った心温まる歌ですね。私、心が癒されました。

星ながる 夜空をみれば かすかなる  
光とともに 願いも叶う

【受賞者】 田中 未華さんの喜びの声  
七夕を考えて書きました。ひこぼしとおひめ  
の願い、流れ星を見て、願い事をしている人  
の願い、浮かべて書きました。金賞を取れて嬉  
しいです。

【江戸川台教室長 森 清志 より】  
金賞おめでとうございませす。田中さんの  
願いも叶うよう、一歩ずつ夢に向かつて突  
き進んでください。

銀賞(二名)

お母さん 毎日仕事 がんばって  
ぼくたちみんな まっているから

【受賞者】 柿内 悠日くんの喜びの声  
こんな賞があるとも思わなかったし、選  
ばれるとも思わなくてびっくりした。

【柏教室長 五日市 浩より】  
普段は無口な柿内君が、小四らしい等身大  
の言葉だけで、お母さんへの気持ちをこ  
んなに豊かに

表現したことに感動しました!(絶対に親孝行するんだぞ!)

全国の 動物などの 殺処分  
ゼロになれば いいのになあ

【受賞者】 鈴木 結月さんの喜びの声  
大好きな動物のことを考えて作った短歌が銀賞に選ばれてとてもうれしいです。

【柏教室長 五日市 浩より】  
鈴木さんの愛情豊かな短歌には、柏教室の多くのスタッフが感銘を受けました。飾り気のない言葉が素敵です!

銅賞(五名)

将来に 夢見て進む 六年生  
いろんなことに 挑戦したいな

【受賞者】 山室 勇翔くんの喜びの声  
昨年に続き二回目の受賞ですが、また銅賞をとれて嬉しいです。

【柏教室長 五日市 浩より】  
この時期で、すでに卒業式を迎えられそうなの  
のマインドとそのメンタリティーに感服します。  
さらに未来を描き続けてほしい!

えんぴつが 短くなっていくことに  
塾の勉強 楽しくなる

【受賞者】 関 若葉さんの喜びの声  
受賞出来て本当に嬉しいです。本当にありがとうございました。

【新柏教室長 松尾 裕史 より】

受賞おめでとうございませす。普段からとても字がきれいな、関さん。誠実さが歌に現れています。私、心が温まりました。

輝きを 永遠に持つ 夜の月  
光を照らし 我を見るらん

【受賞者】 高橋 克弥くんの喜びの声  
二年連続で賞を取って嬉しいです。

【新松戸教室長 村田 寛之より】  
受賞おめでとうございませす。非常に美しい情景が思い浮かべられる、素晴らしい歌ですね。

夏の朝 花さきほこる あさがおに  
風にゆられて また花ちるかな

【受賞者】 黒澤 千昌さんの喜びの声  
今回このような賞をもらせていただいて、とてもうれしかったです。

【江戸川台教室長 森 清志 より】  
銅賞おめでとうございませす。色とりどりのあさがおの花が思い浮かびます。風に揺られて涼しそうですね。

七夕は 幸せをよぶ 天の川  
願いを叶えて いつまでも

【受賞者】 戸部 真悠香さんの喜びの声  
受賞できて、うれしかった。字数を考えながら、書くのが、難しかったです。

【我孫子教室長 長坂 浩之より】  
夢のある句で、いろいろなことに一生懸命な真悠香さんらしいと思います。おめでとうございませす。

# ちょっと待て！ きみがやっているのは勉強ではない。単なる作業だ！

●「日蓮は鎌倉を中心に他宗を厳しく攻撃しながら国難の到来を予言するなどして布教を進めたため、幕府の迫害を受けた。」(栄西は密教の祈禱にもすぐれ、公家や幕府有力者の帰依を受けて、のちに臨済宗の開祖と仰がれた。)(日本史の教科書より抜粋)

●歴史は教科書を読むのがよいと、昔からいわれる。ベストかどうかはさておき、せつかく学校でやっているのだから、しっかりと読むべきであろう。で、生徒は教科書を何回か読むことになる。そして、その教科書は、先にあげた抜粋文からも分かるとおり、難しめの字には、親切にも「かな」がふつてある。従って、生徒は大した苦労もなく教科書が読めることとなる。しかし、そこには恐ろしい盲点がある。

●実は生徒は、先の文中の①～⑦の語句(網掛けの部分)の意味がわからないのだ。分からないけれども、「音」として読めるから、彼らは気にしない。気にしないから、調べようもしない。意味が分からないまま、平気で何度も読むのだ。これは勉強でも学習でもない。悲しいかな、ただの作業である。伸びるはずがない。お宅のお子さんは大丈夫ですか？ いやいや、そこにいる生徒のあなた、大丈夫ですか？

●これは、他の教科でも発生する。現代文の問題集を解いていても、問題文を音として読めれば、大半の生徒に不安はない。本人は読めているつもりである。しっかりと勉強して、ある程度の偏差値をとった人から見れば信じられないかもしれないが、本当にそうなのである。音として読めることが大事であって、意味は大体わかればよいのである。勿論、その「大体」も人によって大きな差があつて、雰囲気

はわかるが、何を書いてあつたか全く説明できない生徒もいる。そして、本文の内容がおぼろげなまま、選択肢を選ぶのである。こういうのを「カン」という。「カン」でやっていたら、それは無駄な作業であり、力なんかつくはずもない。

●英語についていえば、テストのときに頭の中で必死に音読する生徒もいる。何度も何度も、本人は頭の中で一生懸命音読する。当然、頭の中には英文の内容はほとんど入ってこない。そういう生徒は選択肢の内容も正確にはつかめない。でも本人は真剣である。本人も選択肢も内容がはつきりつかめないまま、「多分、これ……。」と答えを選ぶのである。これは考える行為ではなく、「カン」である。

●意味がよくわからないまま、日本史の教科書を読み、国語の問題文を読み、設問を解き、英文を読んで選択肢を選ぶ。実に実に、かわいそうな生徒達である。そして、実はこういう哀れな生徒は古今東西ほおっておかれる。というより、この部分について指摘する参考書も問題集も皆無なのである。しかし、伸びない生徒が、壁を越えるには、意味が分からないまま解く(読む)という習慣を一日も早くやめなければいけない。で、今日も私は叫ぶ。「訳せ。意味をとれ。カンでやるな。」(小林)

## ツイチ。

●創学舎ニュースが届く頃は八月中旬……。皆さんが学校の宿題に取り掛かり始めたところでしょうか？皆さんの中には「まだ大丈夫」と根拠のない自信を持たれている方、素晴らしいことにもう宿題を終わらせている奇跡のような方、と様々なのではないのでしょうか。

●私も皆さん同様、宿題は追い込まれてから燃える(?) タイプの人間だったので、八月の二十五日過



ぎからが真の勝負であつた。特に読書感想文は最後の最後まで残る宿題のひとつで、ただでさえ読書をするという大仕事に加えて、作文というおまけがついてくるのだから、心の底から嫌で仕方なかった。本当に嫌いで、嫌いで仕方なかった、高校生までは……。

●高校の同じクラスの友人から薦められた一冊の本。作者は宮本輝。タイトルは『星々の悲しみ』。大学受験浪人二年目の主人公の話。そんなに長くはない話なのですが、のめり込んでしまった。自分が同じ大学受験生だからということもあつたと思う。授業中(!?皆さんはマネしないでください。)に読破して、読書の面白さにはまってしまった。たぶん、受験勉強の逃げと言われるかもしれないが、そのとき、少し本の醍醐味を味わった。言葉ではうまく言えないけれど、心と体がそう感じた。読書って、面白い。誰にでも、何にでもなれるのだから……。ここで私から皆様にお薦めというわけではないですが、私が良かったと思う作品をほんの少しだけ紹介させていただきます。

●『龍は眠る(宮部みゆき)』サイキックをテーマとする作品。私が学生時代から大好きなミステリー作家。『火車』『レベル七』『理由』と続けて読んでいた。あなたが宮部ワールドの凄さを体感することになります。

●『カラフル(森絵都)』高校生に読んでもらいたい本の第一位はこれだそう。他人の気持ちがいかにわかるようなハートフルな内容で読み易い。また、創学舎の多くの講師が読まれている『二日月(森絵都)』も一緒に。塾業界のことが少しわかるかもしれません。

●『ころ(夏目漱石)』この日本でこの作品を超える作品は存在しないのではないかと、思うくらいに完

成度の高い作品。三角関係というスタイルを形成したことでも有名な漱石の最高傑作。それだけ多くの人が読んでいるのだから、あなたも手にしてみれば？

●『君の臍臓を食べたい(住野よる)』映画化も決定して、今書店で平積みになっている話題の一冊。タイトルはグロテスクだが、内容は普通の高校生の話。映画館で上映される話の展開の面白さに、ページを捲るのが止まらなくなるかもしれません。

●『いま、会いにゆきます。(市川拓司)』日本の映画史にも残る時間を越えた恋愛映画。主題歌『花』と共にひとを愛することの大切さを感じさせてくれる一冊です。ちなみにこの映画で竹内結子さんが大好きになりました。(笑) また、映画『ただ、君を愛してる。』の原作『恋愛寫真』もおススメです。

●『徳川家康(山岡荘八)』普通の武士である彼が周囲の人間の影響を受けて、大きく成長していく長編歴史小説。この方がいなかったら、今の東京は存在しなかったはず。亡き祖父から何回も読めと言われ、まだ二回しか読んでいません。ちなみにその一回は漫画です。おじい様、ごめんなさい。

●番外編ですが、『百万回生きたねこ』これは絵本ですが、とても深いお話です。子供の頃には何気なく読んでいましたが、今読み返すと、ちよつと泣いてくるかもしれません。考えさせられるお話です。

●読書に抵抗がある方は、毎年、夏が近づく頃に書店に『夏の一冊。』という類の無料の冊子が並びます。この中から自分好みの本を選ぶのも面白いかもしれません。是非とも夏に一冊、書店で本を手にとってみよう。でもやっぱり、読書も大切だけど、仕事や勉強も大事。優先順位を間違えないでください。(松尾)

